

モデル事業名	飯能市吾野地区 自然・歴史・生活文化を活かした交流にぎわい創生プロジェクト
活動団体名	吾野宿の再生を考える会
ホームページ	なし
所属／ 担当者名	吾野宿の再生を考える会／事務局 大河原義重
連絡先	電話番号 042-978-1948
活動地域	埼玉県飯能市吾野・東吾野地区

● **活動地域の概要**

- ・ 飯能市吾野地区・東吾野地区は、市域の北部に位置し、横瀬町、ときがわ町、越生町、毛呂山町、日高市と境界を
せっている。地区の面積は吾野地区が3460ha、東吾野地区が2001.1haである。
- ・ 13ある吾野地区・東吾野地区の大字で、最も人口の多いのは南川で631人、世帯数は282である。最小の大字は高
山で18人、世帯数は11である。
- ・ 吾野地区の平均年齢は51.7歳、東吾野地区は49.1歳である。両地区で最も平均年齢の高い大字は高山で75.4歳、
次いで上長沢で高く63.5歳である。
- ・ 両地区は、江戸時代より続く伝統的な西川林業の中心的な地域であり、吾野地区の林野率は83.7%、東吾野地区は
85.3%となっており、地区の大部分が山林である。飯能市山間地域振興計画の対象地域となっている。
- ・ 地区内の公共交通としては、西武秩父線が通過しており、吾野地区に3駅、東吾野地区に1駅があり、週末にはハ
イキング客の利用が目立つ。
- ・ 幹線道路として国道299号が地区内を通過しているが、バイパスの整備やトンネルの新設等により、地区の旧中心
地（拠点）等を迂回するルートとなり、地区を立ち寄る事なく通過する交通の増加が懸念される（バイパスは整備済
み、トンネルの工事も間もなく着工となる）
- ・ 地区内には大正期の古民家が建ち並ぶ吾野宿、明治、大正の歴史的な旧校舎が残る旧南川小学校、旧北川小学校が
ある。地区では、これらの保存と利活用方法の検討・取り組みが行われている。



【位置図】



【歴史的な町並みが活かされていない】



【杉が密集する山林】

● 活動地域の課題

- ・ 人口減少（吾野地区H18年 3395人→H20年 2696人、東吾野地区H18年 2771人→H20年 2363人）
- ・ 働ける場所がなく若者が住みにくい
- ・ 郵便局、交番、農協等の統合による利便性の減退
- ・ 交通条件の変化（トンネルの新設）による旧道部分の増加、通過交通の増加と地区来訪者の減少
- ・ 林業従事者の減少、山林所有者の負担の増大、山林の手入れ不足等による林業問題
- ・ 不明瞭な地区内の連携・協力（役割分担）体制
- ・ 地区内の既存資源（吾野まつり等）が活かされていない
- ・ 経済効果を伴った活動の必要性
- ・ 都市部からの人の誘致（定住者および交流者の両方）
- ・ 地区内の既存施設（古民家、農地等）が利用されていない
- ・ 吾野宿の古民家の保全・活用と、町並み景観整備

● 活動の内容

- ・ 平成20年度（継続団体は記入）
 - ・ 活動①：吾野地区、東吾野地区の資源調査
 - ・ 活動②：既存事業（吾野まつり）における現状の課題と評価および提案
 - ・ 活動③：「吾野を語る会」の開催
 - ・ 活動④：広報資料（パンフレット）の作成
 - ・ 活動⑤：吾野宿再生の提案
 - ・ 活動⑥：吾野地区、東吾野地区再生の方向性と今後の企画提案
-
- ・ 平成21年度
 - ・ 活動①：既存行事の持続的展開・交流促進
 - ・ 活動②：各団体・高校等と連携した空き施設、遊休農地活用
 - ・ 活動③：地区内活動団体の連携による地区内産物の効果的な販売実験（吾野市の開催）
 - ・ 活動④：吾野宿町並み再生・整備計画の策定、修景作業の試行
 - ・ 活動⑤：「吾野を語る会」および「吾野地区再生会議」の開催活動

● 活動の成果

- ・ 平成20年度（継続団体は記入）
- ・ 調査により地区の資源や団体の活動、課題点を把握できた。
- ・ 地区内外の専門家や多様な主体との連携体制が構築された。



「吾野を語る会」開催の様子。地域の課題や活性化への提案が出された。

● 平成21年度（現在の活動状況を記入）

（活動の状況、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入）

・ 活動①：既存行事の持続的展開・交流促進プロジェクト

1. 「吾野宿まちなみ展覧会」の開催：900名もの来訪者があり知名度を上げた。出展者の作品が他所も活用された。



「吾野まつり」と「まちなみ展覧会」と事業を重ねることで集客と知名度アップを図った。作品展示は「木感謝」と命名された西川材で作られたベンチ。

2. 「吾野まつり」の開催：1200名もの参加があり、「まちなみ展覧会」との相乗効果を得た。
3. 「ホテル観賞のつどい」の実施：24名参加、自然の豊かさもアピール出来た。
4. 「地元と都市の親子交流」ワークショップの開催：34名参加、都市住民との交流の場づくりのきっかけをつくった。
5. 「川とまち、生き物から学ぶ活性化」講演会開催：27名参加、自然の価値の再認識に役立った。（特に地元の方に）
6. 「まちなみ見学会」の実施：23名参加、貴重な歴史的町並みが残っていることを内外に知らしめた。



吾野宿の歴史的な町並みに興味をもたれる方々が多く、保存と活用に向けてのPRとなった。

・ 活動②：各団体・高校等と連携した空き施設・遊休農地活用プロジェクト

1. 「吾野宿まちなみ展覧会」と「吾野市」に合わせた販売：全国の農水産高校へ呼び掛け5校が参加、地元農家や個人13名、4団体が協力。空き施設を利用して販売することで、大きな資金を掛けなくても始められる印象を伝えた。

・ 活動③：地区内活動団体の連携による地区内産物の効果的な販売実験（吾野市の開催）プロジェクト

1. 「吾野市」の開催：市を開催しPRすることで、集客できる実感を得た。

・ 活動④：吾野宿町並み再生・整備計画の策定、修景作業の試行プロジェクト

1. 空き施設（JA店舗）改装計画実施：間伐材を使った内外装で地域性をアピールできた。
2. 吾野宿散策路調査：街道筋だけではなく、川辺や山辺の魅力を発見できた。
3. 吾野宿町並み再生計画案説明会の開催：具体的な案を提示することでイメージを共有化することが出来た。
4. 吾野宿散策路計画案作成：提案作成中

・ 活動⑤：「吾野を語る会」および「吾野地区再生会議」の開催活動プロジェクト

1. 「吾野を語る会」の開催：多方面の関係者により多様な活性化に繋がるご意見を頂けた。
2. 「吾野地区再生会議」の開催：イベントを通して、今後の展開への可能性を探ることが出来た。

● 今後の課題及び展望

・課題（活動を通して発見された課題等を記入）

かつて経済的に活気があった地域であったが、現在は疲弊している状況にある。経済活動を伴う市（いち）の開催等のイベント事業を試みているが、地域住民にとっては様子見の感がある。地域住民が一丸となって活性化への取り組みに参加する形をつくっていけるか、その意識付け（やる気）を持たせるかが課題である。

・展望（今後の取組みや検討について記入）

歴史的な文脈をもつ「吾野市（いち）」を再開し、これを継続、発展させること中心的なテーマとなる。通常のスーパーで行っている市（いち）ではなく、吾野宿の歴史的町並みのポテンシャルを活かし、そうした地域性と生活文化を高める特色ある市（いち）の開催を目指す。そうしたコンセプトに基づき、古民家の修復や道の整備により町並み景観を整え、店舗やギャラリーの設置誘導を行う。その他、吾野散策や体験型のエコツアーを実施する。